

4 主要作物生育、作柄の概要

1) 農作物生育状況（経営技術課情報より）

(1) 普通作物

① 水稻（やや良 作況指数102 県北部101 県中部102 県南部101 農林水産統計より）

[早植栽培]

- ・ 3月中下旬の最低気温が低く、一部の地域でこの時期に浸種した籾の発芽不良が発生した。4月中旬から5月上旬が気温が低く経過したことから、苗丈は短かった。
- ・ 5月上旬の気温が低く、5月6～8日に吹いた強風が苗の活着に影響し、全量元肥体系では茎数は少なめだった。現地では除草剤による葉害の発生が見られた。
- ・ 5月中旬～6月中旬まで気温が高く、日照時間も6月上旬まで多く、高温・多照傾向だった。生育は4～5日程度進んでいたが、茎数は少なかった。
- ・ 7月3半旬まで高温・多照が続いたため出穂期がかなり早まると予想されたが、7月4半旬～8月1半旬が一転して低温・寡照傾向となったため生育の進みは短縮され、出穂期は平年より4日早かった。
- ・ 9月上旬も平年より気温は高く、日照時間は多く経過したことから、成熟期は平年より5日早く、登熟日数は2日短くなった。

[普通植栽培]

- ・ 用水不足から移植が遅れ育苗期間が長くなったため、苗の生育は、草丈が長く乾物重は重かった。
- ・ 田植後6月5半旬～7月第1半旬は高温・多照と低温・寡照の変動が大きく、また老化苗を植えたことにより、初期生育は遅れたが、草丈は低く、茎数は少なかった。
- ・ 7月3半旬まで高温・多照が続いたが7月4半旬～8月1半旬は一転して低温・寡照傾向となったため、平年より草丈が低く、茎数も少なかった。
- ・ 8月上旬～収穫期まで高温で経過したことから、出穂期は8月26日で、平年より2日早まった。成熟期は10月10日で平年より4日早まり、登熟日数は46日と2日短くなった。出穂期以降も高温・多照だったことから登熟歩合が高まったが、台風18号通過後の高温の影響でくず米が多く低収となった事例もあり、ほ場による差が見られた。

表 主要品種の生育概況（生育診断ほ平均）

品種	出穂期			成熟期			登熟日数			登熟歩合(%)			収量(kg/10a)		
	H25年	平年	差	H25年	平年	差	H25年	平年	差	H25年	平年	差	H25年	平年	比
コシヒカリ (早植)	7月31日	8月3日	-4	9月10日	9月14日	-5	42	43	-1	86.1	81.7	4.3	59.9	56.9	105
あさひの夢 (普通植)	8月26日	8月27日	-2	10月10日	10月14日	-4	46	48	-2	89.8	79.6	10.2	62.8	52.8	119

参考：品質の概況

- ・ 1等比率コシヒカリ88.2%、あさひの夢92.2%、なすひかり87.2%、とちぎの星93.9%
(平成25年10月31日現在 農水省調べ)
- ・ 2等以下格付け理由の上位は、胴割粒48.3%、心白・腹白粒25.3%、カメムシ類9.5%
(平成25年11月30日現在 全農とちぎ調べ)

② 麦類（平成25年産）

収量(対前年比 小麦：108 二条大麦：118 六条大麦：141 農林水産統計より)

- ・播種作業は県中南部で例年並みに進んだが、県北部では播種時の降雨によりやや遅れた。出芽は概ね順調で、苗立数を確保できた。
- ・播種後から2月下旬まで低温で経過したため、莖数は少なく推移し、特に県中北部の生育は遅れた。1月14日の積雪により、県中北部では株枯れや葉先枯れ等が見られ、2月中旬では2週間程度の遅れだった。
- ・2月下旬以降は急激に暖かくなり生育の遅れを取り戻したが、莖達期は平年より6～7日遅れた。
- ・莖立期以降も気温が高く経過したため生育は回復し、出穂期は二条大麦で1日早まり、六条大麦では平年並、小麦で1日程度の遅れとなった。いずれの麦種も前年と比べて5日～8日早かった。播種が遅れたほ場を中心に穂数不足が顕著だった。
- ・4月中下旬の低温により、二条大麦や六条大麦で穂先枯れや不稔が見られたが、実害はなかった。小麦では穂の部分凍死や不稔が散見され、県東部を中心に局地的に被害を受けたほ場が見られた。
- ・収穫作業は二条大麦で県南部が5月第5半句から、県中北部で6月第1半句から始まり、刈り取りの進捗は平年よりやや遅れた。
- ・二条大麦は整粒歩合が高く製品収量は平年を上回っており、契約数量を上回った。品質も全般的に良かった。六条大麦および小麦も全般的に品質は良かったが、県中北の一部において枯れ熟れや刈遅れによる粒の退色が見られた。

③ 大豆

- ・播種は6月中旬～7月上旬に行われた。梅雨明けが7月6日と平年より約2週間早かったことから、湿害による出芽不良や播き直しは少なかった。
- ・初期生育は概ね順調だったが、7月下旬の大雨により一部で湿害が見られた。
- ・開花期は、7月下旬の低温により8月上中旬と平年よりやや遅れた。
- ・8月は平年に比べ高温少雨、9月は高温で推移したが、落莢などの被害は少なく、着莢数は平年並からやや多かった。「里のほほえみ」で葉焼病やべと病の発生が見られた。
- ・9月は台風や低気圧などによる大雨や強風の影響で、なびき倒伏したほ場が見られた。10月15～16日に台風26号の通過後、急激に落葉した。収穫期は10月下旬で、降雨の影響により遅れた。
- ・小粒のため前年より低収だが、品質・歩留まりが良好で作柄は平年並～やや良の見込み（平成26年2月7日現在）。

(2) 野菜

① いちご

- ・平成 25 年産本ば（並～やや不良 生育期間：平成 24 年 9 月～平成 25 年 5 月）

花芽分化は、夜冷育苗では概ね平年並で、その他の作型は 9 月上中旬の高温の影響により平年並～やや遅い状況であった。定植作業は概ね順調に行われたが、11 月上旬からの低温により生育が遅れ気味のは場が見られた。頂花房の花数は平年並からやや多かった。また、1 次腋花房の開花は平年並からやや遅れた。作柄は平年に比べ並～やや不良であった。

病害虫は、萎黄病がやや多い発生であった。うどんこ病は 10 月から発生が見られ、平年並～やや多い発生となった。ハダニ類、アブラムシ類の発生は多い傾向で、灰色かび病は 1 月以降多くなった。

- ・平成 26 年産親株～苗（並 平成 25 年 5 月～9 月）

低温の影響によりランナーの発生はやや遅れ気味となった。また、高温により活着の遅れや植え痛みが見られた。うどんこ病の発生は梅雨入り頃から増加したが、平年よりも梅雨明けが早く、高温により発生が抑えられた。ハダニ類は育苗初期からやや多い発生で推移し、一部で炭疽病、萎黄病の発生が見られた。

② トマト

- ・冬春トマト（やや良 生育期間：平成 24 年 10 月～25 年 6 月）

越冬長期どり作型は、低段花房で収穫の遅れ、裂果、空洞果、着果不良等が発生し、やや小玉傾向であった。年内の収量は前年並みであった。促成冬春どりは、定植後から年内の生育は順調に経過した。両作型とも、年明け後は日照条件に恵まれた結果、果実肥大・果実品質とも良好で、灰色かび病の発生が少なかったため総収量は前年対比 111%となった。

病害虫は、生育初期から黄化葉巻病がやや多い傾向で、10 月以降は葉かび病の発生もやや多くなった。一部のは場でかいよう病の発生が確認された。

- ・夏秋トマト（並～やや良 生育期間：平成 25 年 5 月～25 年 9 月）

高温乾燥で一部生育遅延が見られたが、作柄は平年並～やや良であった。病害虫の発生は全般に少ない傾向であった。一部のは場でかいよう病の発生が確認された。

③ なす

- ・夏秋なす（並 生育期間：平成 25 年 6 月～10 月）

5 月の低温及び 6 月以降の高温乾燥で初期生育が大幅に遅れた。7～8 月は高温による生理落花が多く見られた。9 月、10 月の台風被害、特に台風 26 号（10/16）で大きな被害を受け、多くのは場が 10 月いっぱいまで収穫終了となった。病害虫は、うどんこ病、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生が例年より多く、ウイルス病の発生も目立った。

④ きゅうり

- ・夏秋きゅうり（並 生育期間：平成 25 年 6 月～9 月）

高温乾燥の影響により一部に生育の遅れが見られたが、作柄は概ね平年並であった。アブラム

シ類、アザミウマ類の発生が例年より多く、ウイルス病の発生が目立った。

⑤ には

・冬どり（並～やや不良 生育期間：平成24年9月～平成25年5月）

養成株は、高温乾燥の影響から全体に生育が遅れ、株の充実不足がみられた。10月以降は、生育も回復したが、分けつ数は平年より1～2割程度少ない傾向であった。12月上旬には2年株の収穫と一部で1年株の保温が開始された。株の充実不足から出荷量は少なめであった。白斑葉枯病の発生は平年並であった。ネダニは、株養成期から収穫期を通して多い発生であった。

⑥ ねぎ（並 生育期間：平成25年2月～11月）

夏期から秋期の高温により生育は一週間程度遅れ、9月、10月の台風害を受け一時的な生育停滞が見られた。11月以降は天候が安定し平年並の生育となった。葉鞘の太さは並だが、上位等級率がやや低かった。黒斑病、アザミウマ類の発生が生育期間を通してやや多く、一時的にべと病の発生が目立ったが、その他病害虫は平年に比べ、少ないから平年並の発生であった。

⑦ たまねぎ（並～やや良 生育期間：平成24年9月～平成25年6月）

2月及び4月が高温で推移し、適度な降雨があったことから茎葉の生育は順調で、5月以降は低温で経過したことから鱗茎の肥大が進み大玉傾向となり、作柄はやや良であった。3月から4月にかけて黒点葉枯病の発生が目立った。4月以降は一部でべと病の発生が多くなった。アブラムシ類、アザミウマ類の発生はやや多かった。

⑧ レタス

・秋冬どりレタス（並～やや不良 生育期間：平成25年9月～12月）

9月、10月の台風害で生育停滞や生育不良が見られた。気温が高めに経過したことから収穫時期は全般に早まり、玉はやや小玉傾向で、作柄は並～やや不良であった。

(3) 果樹

① なし（やや不良）

催芽期は幸水、豊水とも平年より10日早く、開花盛は幸水で平年より9日、豊水で11日早かった。収穫期は幸水で平年より5日、豊水で8日早かった。4月中下旬の低温・晩霜の影響で着果数は少なく果実初期肥大は停滞したが、生育が進むに従い果実肥大は回復し収穫時の果重は幸水、豊水ともに平年より大きくなった。糖度は平年並みだった。みつ症等の果実生理障害は豊水、きらり、にっこりで程度や症状に差はあるが、発生量は多かった。生育前半の黒星病の発生は少なかったが、6月以降平年並となった。生育中期以降はハダニ類、チャノキイロアザミウマの発生が目立った。

② ぶどう（並）

巨峰の催芽期は平年より9日早く、開花盛は平年より7日早かった。収穫盛は平年より19日早かった。結実はやや平年並み、房重は平年よりやや小さかった。糖度は平年並み、着色も平年並みであった。生育前半から一部の品種で黒とう病が散見された。生育後半になってべと病、褐斑病の発生が見られた。害虫の発生は少なかった。

③ りんご（並）

ふじの催芽期は平年より6日早く、開花盛は6日早かった。収穫盛は平年より7日早かった。結実はやや平年並みで、収穫時果重は平年並みであった。糖度は平年並みであったが、着色はやや不良だった。生育中期以降、褐斑病が散見され、生育後半は斑点落葉病、炭疽病が散見された。害虫の発生は少なく、一部ハダニ類の発生が目立った。

樹種名	品種名	催芽期		開花盛		収穫盛		果実重 g	糖度 Brix%
		月日	平年差	月日	平年差	月日	平年差		
なし	幸水	3/27	-10	4/16	-9	8/28	-5	481	12.5
	豊水	3/23	-10	4/11	-11	9/15	-8	588	12.1
ぶどう	巨峰	4/8	-9	6/5	-7	9/1	-19	304	18.4
りんご	ふじ	3/28	-6	4/22	-6	11/8	-7	387	15.2

注：催芽期、開花期、収穫期の平年差の-は、早くなったことを示す。

なしは過去10年の平均。ぶどうは1971～2010年の平均、りんごは過去10年の平均。

(農業試験場果樹研究室より)

(4) 花き

きく（並）

冬季は低温の影響によりボリューム不足するほ場も散見されたが、ほぼ平年並みで推移した。8～9月にかけては、猛暑であったが、高温に強い夏秋系の導入が進んだため、開花遅延や奇形花の発生は少なかった。10月には台風の影響で被害を受けたほ場もあった。病害の発生については、白さび病は平年より少なく、一部の品種で散見された。ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類は平年並～やや多い発生であった。8月以降オオタバコガの発生が目立った。